幼稚園の環境教育教材として短大・大学生が制作した「落ち葉絵」

入江　和夫・福地　昭輝[*1]・入江　正己[*2]

Pictures Made with Fallen Leaves by Junior College and University Students as Teaching Materials for Environmental Education for Kindergarten Children

IRIE Kazuo, FUKUCHI Akiteru[*1], IRIE Masaki[*2]

（Received January 7, 2015）

キーワード：幼稚園教育、落ち葉絵、環境教育、短大生、家庭科

はじめに

「環境教育指導資料幼稚園・小学校編」（国立教育政策研究所　2014）（＝「資料」とする）では幼稚園における環境教育として、「幼児期の子供は、・・・自然の不思議さや美しさ，環境の面白さ等について体を通して感じたり体験したりすることが重要」であると述べている。著者らが以前行った研究（入江和夫 2012）では、中高校生にとって「家事の手伝い」のような身体を通しての体験があるほど、環境保全の意識は高まった。また、「教員養成学部生の「環境配慮行動」を高める要因」（入江和夫 2014）では、大学生の「自然体験」が多いほど、「生活の省エネ志向」が高まることを明らかにした。このようなことから、環境保全の意識形成は、生活体験や自然体験が大切であり、特に幼児期での体験活動はその形成の基盤となることから重要である。さらにこの資料では領域「環境」と他領域のねらいを関連させた総合的な指導によって環境教育は推進すると述べている。

また、この資料には「将来、子どもが環境教育に関わる能力や態度を育むことにつながる幼児期に経験させたい内容」が示され、（１）「自然に親しむ経験」は「環境を感受する能力」「環境に興味・関心をもち、自ら関わろうとする態度　（２）「身近な環境に興味や関心をもち，働き掛ける経験」は「問題を捉え，その解決の構想を立てる能力」「情報を活用する能力」（３）「人やものとの関わりを深め，先生や友達と共に生活することを楽しむ経験」は将来の「合意を形成しようとする態度」「自ら進んで環境の保護・保全に寄与しようとする態度」を育むことにつながると述べている。

幼稚園の活動事例として「落ち葉絵」がある。大阪市J幼稚園では年中組の園児を対象に、遠足で公園に行ったときに拾った落ち葉やどんぐり、木の実を使って“ふくろう”の「落ち葉絵」を制作している。また、千葉市M幼稚園では年長組の園児を対象に落ち葉や木の実を使って、カメやキツネなどの壁面制作を行っている。これらの様子を見ると幼児は落ち葉を集め、自然と触れ合い、葉の色や形の特徴から動物や植物に見立て落ち葉絵を制作している。

果たしてこの活動が幼稚園での環境教育の教材となるのかを明らかにする。具体的には幼稚園教諭及び保育内容がある家庭科の教員を目指す学生を対象に「落ち葉絵」制作を行い、その感想を分析する。その際、学生はすでに「資料」に記載されている「つながり」を理解していると考え、感想が「幼児期に経験させたい内容」に該当していれば、子どもが将来、環境教育に関して育むであろう能力、態度を見通し、援助することができるのではないかと考え、実践した。以下に学生の作品を紹介するとともに感想を分析した結果を述べていく。

＊1 鶴川女子短期大学　　＊2 わせがく高等学校

１．方法

１－１　対象は私立ｔ短大２年生20名、国立ｙ大学教育学部１年生13名
１－２　授業は2014年10月～11月、ｔ短大「環境II」、ｙ大学では「生活科学論」で行った。
１－３　活動は大学構内で、集団で落ち葉集めを行い、それを使って授業中で落ち葉絵を作成し、後日、鑑賞会を行った。

２．結果と考察

２－１　大学生が描く落ち葉絵

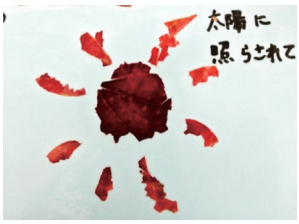
「落ち葉絵」はストーリーがある４コマ絵にした。代表的な作品を図１a, bに示した。

作品１はひまわりの種まきからはじまり、成長して花が咲き、太陽に照らされて、花が枯れていく様子を示している。濃い茶色の枯れ葉で土を、明るい黄色の枯れ葉をちぎって人の手を表現している。紅葉の枯れ葉を使って太陽を表し、カエデの翼果を散る花びらに見立てている。作品２も植物の成長である。濃い茶色の枯れ葉を土と見立て、黄色の枯れ葉を丸く切ってそれを種としている。水は細く切った枯れ葉を用い、赤色の枯れ葉を花芽とし、それが成長し、赤色の花が咲く様子を示したものである。作品３は「いもむし」の成長である。茶色い葉を丸く切り、それをつなげて「いもむし」に見立て、葉っぱを食べて、黄色い枯れ葉１枚を「さなぎ」として表現し、羽化して蝶々になる過程を描いている。作品４は「みの虫」の成長である。①は「・・・・・・」から始まり、何かな？と引きつけている。「もぐもぐ→もぐもぐ　もぐもぐ」の表現がさかんに葉を食べて大きくなっている様子を表している。作品５は黄色の枯れ葉を切って「ねこ」を作り、紅葉で秋であることを表している。その「ねこ」が落ち葉の中からつるを発見し、引っぱってみると茶色の枯れ葉で見立てたさつまいもが出てきて、みんなで仲良く食べている場面を表している。作品６は濃い茶色の枯れ葉で柿の木を表し、黄色の枯れ葉を丸く切って柿の実を表している。小鳥の顔は黄色の枯れ葉で羽は茶色で形作り、大きくなった柿を小鳥が食べ、この様子を柿の木は見守っている。作品７は絵としてはシンプルであるが、成長から年老いて行く姿、さらに、死を葉の色や落葉して横たわる姿で示している。死は何もなく消えてしまうことではなく、「やっと虫さんの役に立つことができるよ」というストーリーであり、食物連鎖を表している。作品８は「おちばで何ができるかな」がスタートで、②で焼き芋にしたり、③で踏んづける場面が印象に残る。枯れ葉を踏む音からも秋を感じることができることを示している。作品９は「1本の木」を濃い茶色の枯れ葉を貼り付けて作り、黄色の落ち葉を生きている人のように、息を吹きかけるという行為によって、落ち葉の布団ができてしまうストーリーである。作品10は「うさぎ」が枯れ葉で見立てたさつまいもを持っている。「おいもさん」を焼く炎を紅葉で見立てている。作品11は春夏秋冬の場面について枯れ葉などを使って表している。春の蝶は黄色の枯れ葉、赤い花は紅葉、夏の太陽は黄色の枯れ葉、秋の焼き芋はあかね色の枯れ葉で表現し、冬の雪はたんぽぽの綿毛で表現している。

作品１

①ある人がひまわりの種をまきました

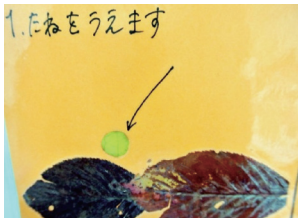
②りっぱなひまわりが咲きました



③太陽に照らされて

④ひまわりはかれていきました

作品２



①たねをうえます

②みずをかけます

③ぐんぐんのびます

④はながさきました

作品３

①あるところに１ぴきのいも虫がいました。

②もぐもぐたくさん食べて

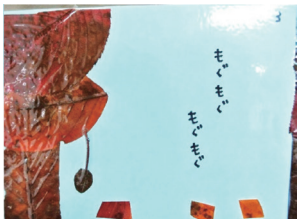
③大きなサナギになり

④すてきなちょうちょになりました

作品４

①・・・・

②もぐもぐ



③もぐもぐ　もぐもぐ

④みのむし誕生

作品５

①とある秋の日、ねこさんがいました。

②歩いていると落ち葉の中から、ひょこっと飛び出ているものを見つけました。

③一生懸命引っぱってみると大きな、おいもが出てきました

④おいもを使ってみんなでやきいもにして、なかよく食べました

作品６

①おやーこんなところに、おいしそうな木の実があるぞ

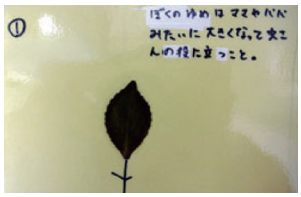
②ところが・・・・むこうのほうから、もう一羽のことりが木の実をとりにきました。

③２羽のことりが柿をつつくと・・・

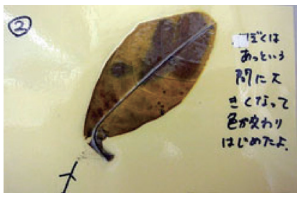
④大きな柿になり、みんなで食べました。幸せを運ぶ柿

図１a　学生が描いた「落ち葉絵」

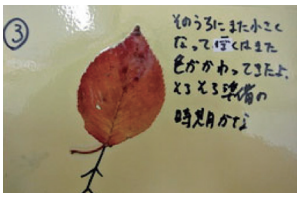
作品7



①ぼくのゆめはママやパパみたいに大きくなって虫さんの役に立つこと。



②ぼくはあっという間に大きくなって色が変わりはじめたよ。



③そのうちにまた小さくなって、ぼくはまた色がかわってきたよ。そろそろ準備の時期かな。

④風に吹かれたぼくはひらひらと落ちて、やっと虫さんの役に立つことができるよ。

作品8

①おちばでなにができるかな？

②やきいもにしたり

③おちばをふんだり

④いろんなことできるね

作品8

①モコ…

②モコモコ…

③モコモコモコ…

④落ち葉のようせい

作品9

①１本の木がありました

②フーフーと　フー　～～～

③おちばちゃんがいきをふきかけると

④おちばのふとんができたとさ

作品10

①おいもさんができたよ

②おいもさんは　まえははっぱだったのに　ふしぎだね

③おいもさんを ひ でやいてみよう

④みなさんでたべたら　おいしいよ

作品11

①はる　花

②なつ　すいかわり

③あき　ホクホク♪　やきいも

④ふゆ　雪だるま

図1b　学生が描いた「落ち葉絵」

２－２　　「落ち葉絵」制作活動の感想と分析

これから幼稚園教諭になる学生及び「保育」を含む家庭科の教諭を目指す大学生の「落ち葉絵」の活動（＝集団で外に出かけ、落ち葉集めを行い、それを使って物語りを作り、鑑賞会を行う）の感想を表１に、環境教育指導資料を表２に示し、分析していく。

表１　「落ち葉絵」制作後の学生の感想

学生	Q　集団で外に出かけ、落ち葉集めを行い、それを使って物語りを作り、本日は鑑賞会を行いました。　これら活動に関する自分の感想を書きなさい
a	枯れ葉は乾燥して扱いにくいが様々な色があることを実感した。同じ赤でも多くの色の違いを見つけることができ、子どもたちの観察力を養うためにこの活動はとても適しているなと感じた。
b	最初は全然アイデアが浮かばなくて、すごく悩んだけど子どもたちにとってはこうやってたくさんなやんでいくことも大切だなあと思いました。いろいろなことを考えて創造力を豊かにしていくことができると思います。
c	限られた素材をつかって物語をつくることは予想以上に難しかったが、どのようにしたら、他の人に自分が伝えたいことを伝えられるのか工夫した。・・・紙と葉とペンだけで全員違う作品ができたことに驚きました。
d	実際に落ち葉絵を作ってみて思っているものを表現するのが大変でした。ですが、落ち葉にも赤や黄色など様々な色があり、とてもきれいでした。
e	自然にふれることができて落ち葉で表現するのは難しかったけどできたときの達成感はとても良いです。
f	感触でぱりぱりしている落ち葉の方がボンドではるとき、なかなかくつかずちょっと大変でしたが、落ち葉だけで様々なことが表現できて楽しかったです。
g	実際にやってみて、難しいところもあったが落ち葉の穴や色を使って秋を表す楽しさを知れて楽しかったです。
h	なかなかうまくいかなくて大変でしたが、葉脈の形や乾いた枯れ葉の破けやすさなどがわかってとてもためになりました。
i	とても楽しかった。表現するのは意外とむずかしいと思いました。
j	実際にやってみて物語を作るのは大変だったけど、楽しかった
k	大学生の私たちでも簡単な作業だとは思えないし、いろいろ考えて行わないといけないので大変だから幼児にさせると時間がかかるかもしれないが、一つのことをやりとげるだけで様々な発見と工夫ができると思う。
l	自分自身、とても想像力が必要な作業でした。はじめは落ち葉でどんな作品をつくればよいのだろう。と悩んでいました。しかし、この過程が大切なのではないかと思います。・・・幼い頃から自然と触れ合わせることが大切だと思いました。
m	作ってみて、落ち葉をつかっていろいろ工夫など表現できることに気づきました。・・・大変だったけど、またやってみたいなと思いました。虫、人、動物、いろいろな物を葉っぱで見立てられる楽しさも知ることができました。
n	私は４コマの物語を作ってみて、外に落ちている自然でこんなにもたくさんの物語がつくれることに感動しました。それぞれの葉の色や形、またそれらをちぎったりして、自分でつくりたいもの、表現したいものを作ることは楽しさだけなく、物語を構成する発想力や想像力、表現力がみんなのそれぞれの物語にも、しっかり入っていたように思いました。
o	集団で外に出かけるといところでわくわくした気持ちになって、外に落ち葉がたくさん落ちているのを見て秋だという季節を感じ、それを使った物語づくりでは葉の形や色を見て、何がつくれるのだろうか、どのような話の流れにしようか、と考えた。・・・先生の立場になったとき、子どもたちの気持ちが多少理解できると思う。
p	自分の体験したことを拾った葉っぱでキャラクターをつくり、自分で拾った葉っぱで物語りにしたことで、この活動の思い出も残せたし、作っていて落ち葉にたいして、すごく興味がもてたのでとてもよかった。
q	外に出かけ、自分の手で落ち葉を集め、作品を作ったことがとても良かったと思いました。・・・また、発表の時間もあったので、いつの作品を完成させた達成感をより味わうことができたので、その点も良かったと思いました。
r	普段の生活の中でわざわざ落ち葉を拾ったり、寒い時期に外に出ることも少なくなってしまうと思うので、日常生活では味わえない体験ができるよい機会になると思った。また、作品製作の過程では、一人一人がいろいろな工夫を凝らして作品をつくり、見せ合ったり、時には協力しながらできて楽しかった。
s	実際にやってみて私たちがやると今まで見てきたことや知ったことを表現できるが子どもたちがやってみたら、また違った子どもたちらしさがある作品になり、とても楽しいのではないかと感じました。いろいろ考えて、工夫したりすることで作ることの楽しさも味わえました。
t	実際に作ってみて、あらためて葉や実、枝を触り、自然を感じることができました。楽しく製作ができたので良かったです。
u	実際に自分で作ってみて落ち葉の色などの違いに改めて気づきながら作っていくのが楽しかった
v	落ち葉を探す中で、いろいろな葉の形や色に触れる事ができて良かったと思いました。
w	実際、自分でやってみてとても楽しかった。一番工夫したのは最後の花びらの部分を細かくして花びらに見せたことです。
x	落ち葉を拾いに行ったときに、葉の色などきれいだと感じました。絵の内容に合わせて葉の色を選んだりするのが楽しかった。集中してできた。
y	落ち葉絵本を作り、どのようにしたら良い絵本にしようか想像して作ることができました。子どもたちに友達と会話を楽しみながら落ち葉絵本を作って欲しいと思いました
z	落ち葉拾いにいくといろいろ作りたい物ができたりするのでとても楽しかった。
aa	何をど一表現するか、ストーリーなど考える能力ができる。発想などする力が身につく。いろいろな物でなにかを作る楽しさを子どもたちに教えたいと思った。
ab	外に落ち葉を拾いに行き、拾った落ち葉をつかって自分で考えた物語を製作するのはすべて自分ならではのもので、完成したら達成感が味わえると思う。
ac	落ち葉を拾いストーリーを考えるのが楽しかった。皆、違った話があり、おもしろかった
ad	落ち葉を使って話をつくるのははじめてで、外に落ち葉を集めたりすることもとても楽しかった
ae	これらの活動を通して、何よりも楽しかった。集団で外へ出かけ、こっちにはこんなものがあるといったやりとりができ一人で落ち葉を集めるより楽しく効果的に行えると思った。・・・また物語を作ることを念頭において集めると、より落ち葉に興味が持てた。
af	葉っぱはそのままでも使えるし、ちぎって他のものを表現できる。・・・自分で落ち葉を拾うことで自然と関わることができる。葉の色・大きさ・形や葉の感触もそれぞれ違うので、発見する力も育まれると思う。

表２　「環境教育指導資料幼稚園・小学校編」

（１）自然に親しむ経験 「自然に親しみ、その大きさ、美しさ、不思議さなどを感じる」「身近な自然や自然物に触れて、いろいろな遊びを楽しむ」など、自然と関わり遊びを楽しむ経験や、「身近な動植物に親しみをもち、いたわったり世話をしたりする」など、動植物と関わる経験は、幼児期に欠かせない。こうした自然に対する感性を豊かにしていく経験は、将来の「環境を感受する能力」「環境に興味・関心をもち、自ら関わろうとする態度」につながっていく。
（２）身近な環境に興味や関心をもち、働き掛ける経験 幼児期では、特に子供が身近な環境に興味や関心をもち、主体的に働き掛けていくことが重要である。こうした中で、「生活の中で、様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ」「身近なものや遊具等に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ」など、子供なりに環境との関わり方に気付いたり、問題を解決しようとしたりする経験が、将来の「問題を捉え、その解決の構想を立てる能力」「情報を活用する能力」につながっていく。
（３）人やものとの関わりを深め、先生や友達と共に生活することを楽しむ経験 「様々な環境とのかかわりの中で、感動したことを伝え合う」「先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう」「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする」「自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」「身近なものを大切にする」などの人やものとの関わりを深め、共に生活をすることを楽しむ経験は、将来の「合意を形成しようとする態度」「自ら進んで環境の保護・保全に寄与しようとする態度」につながっていく。

学生の感想が表２の（１）（２）（３）のどれに該当し、学生が子どもと接することで、子どもに将来、育まれるであろう環境教育に関する能力、態度を見通すことができるのかについて述べていく。
学生ａ～ｍの感想は否定的及び肯定的な内容である。

学生ａ「枯れ葉は乾燥して扱いにくい」は台紙に貼り付ける際に割れてしまうこともあるとの感想である。「様々な色があることを実感」「色の違いを見つける」は自然の不思議さを感じていることから、環境教育指導要領（１）に該当し、これは子どもの「環境を感受する能力」「環境に興味・関心をもち、自ら関わろうとする態度」つながる。したがってこの感想をもった学生が子どもと関われば、今回の体験から子どもの将来の環境教育に関わる能力、態度を見通すことができるのではないかと考えられる。

学生ｂは「すごく悩んだけど子どもたちにとってはこうやってたくさんなやんでいくことも大切だなあ」と述べている。この経験があれば、子どもが試行錯誤している姿を「見守る」「待つ」ことができ、幼稚園教育要領「その幼児が今何を感じているのか、何を実現したいと思っているのかを受け止め、幼児が試行錯誤しながら自分の力で課題を乗り越えられるようにしていくことが必要である。」に対応できると考えられる。

「創造力を豊かにしていくことができる」の創造力とは枯れ葉に興味や関心をもち、主体的に働き掛け、絵で動物や植物などを表現し、創り出していく活動であり「身近な環境に興味や関心をもち、働き掛ける経験」となることから環境教育指導資料（２）に該当する。それは将来の子どもの「問題を捉え、その解決の構想を立てる能力」「情報を活用する能力」につながる。この学生が子どもと関われば、今回の体験から子どもに育まれる能力、態度を見通すことができるのではないかと考えられる。

学生ｃは「限られた素材をつかって物語をつくることは予想以上に難しかった」と述べている。「他の人に自分が伝えたいことを伝えられるのか工夫した」は「人との関わりを深める経験」となることから環境教育指導資料（３）に該当する。それは子どもの「合意を形成しようとする態度」「自ら進んで環境の保護・保全に寄与しようとする態度」につながる。この学生が子どもと関われば、今回の体験から子どもに育まれる、これらの能力、態度を見通すことができるのではないかと考えられる。

学生ｄは「落ち葉絵を作ってみて思っているものを表現するのが大変でした」と述べている。「落ち葉にも赤や黄色など様々な色があり、とてもきれいでした」の「きれいでした」が「自然に親しむ経験」となり、環境教育指導資料（１）に該当する。この学生は学生ａと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｅは「落ち葉で表現するのは難しかった」と述べている。「できたときの達成感はとても良い」の「できた」が環境教育指導資料（２）に該当する。この学生は学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｆは「落ち葉の方がボンドではるとき、なかなかくつかずちょっと大変でした」と述べている。「落ち葉だけで様々なことが表現できて楽しかった」は落ち葉に関心を示し、それを使って動物や植物などを表現する、働きかけがあったことから「身近な環境に興味や関心をもち、働き掛ける経験」となり環境教育指導資料（２）に該当する。この学生は学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｇ「やってみて、難しいところもあった」が「落ち葉の穴や色を使って秋を表す楽しさを知れて楽しかった」の「秋を表す」が環境教育指導資料（２）に該当し、この学生は学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｈは「うまくいかなくて大変でした」と述べている。「葉脈の形や乾いた枯れ葉の破けやすさなどがわかって」の「破けやすさがわかって」が環境教育指導資料（２）に該当し、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｉは「とても楽しかった。表現するのは意外とむずかしい」と述べ、「表現がむずかしい」ことから環境教育指導資料（２）に関わる能力態度育成には否定的である。

学生ｊは「物語を作るのは大変だったけど、楽しかった」と述べ、学生iと同様である。

学生ｋは「大学生の私たちでも簡単な作業だとは思えない」と述べている。「一つのことをやりとげるだけで様々な発見と工夫ができる」で「発見」、「工夫」があることから、学生ｂと同様である。

学生ｌは「落ち葉でどんな作品をつくればよいのだろう。と悩んでいました」と述べている。創作の「悩み」は環境教育指導資料（２）に該当し、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生mでは「大変だったけど、またやってみたいなと思いました」と述べている。「虫、人、動物、いろいろな物を葉っぱで見立てられる楽しさも知ることができました」のように大変な活動だった反面、葉っぱに興味関心を示し、それを虫や人などに表現する働きかけあったことから環境教育指導資料（２）に該当し、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

以下のｎ～ａｆは活動を肯定的な感想で述べている。

学生ｎ「外に落ちている自然でこんなにもたくさんの物語がつくれることに感動しました」は「落ちている自然」は自然に触れるから環境教育指導資（１）に該当し、「自分で作りたいもの」は環境教育指導資料（２）に該当することから、学生ａ、ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｏ「外に出かける」「落ち葉がたくさん落ちているのを見て秋だという季節を感じ」は自然に触れることになることから環境教育指導資料（１）に該当し、「物語づくりでは葉の形や色を見て、何がつくれるのだろうか、どのような話の流れにしようか、と考えた」は環境に働きかけたことから環境教育指導資料（２）に該当する。学生ａ及びｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｐ「自分の体験したことを拾った葉っぱでキャラクターをつくり、自分で拾った葉っぱで物語りにしたことで、この活動の思い出も残せた」の「キャラクターをつくり」が環境教育指導資料（２）に該当すると考えられ、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｑ「外に出かけ、自分の手で落ち葉を集め、作品を作ったことがとても良かった」の「外に出かけ」「作品を作った」が環境教育指導資料（１）（２）に該当する。「発表の時間もあったので」は（３）に該当することから、学生ａ、ｂ、ｃと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｒ「作品製作の過程では、・・・見せ合ったり、時には協力しながらできて楽しかった」の「協力しながら」は環境教育指導資料（３）に該当することから、学生ｃと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｓ「いろいろ考えて、工夫したりする」では「工夫したり」があることから環境教育指導資料（２）に該当し、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｔ「葉や実、枝を触り、自然を感じることができました。楽しく製作ができた」の「自然を感じる」は環境教育指導資料（１）、「制作できた」は（２）に該当し、学生ａ及びｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

学生ｕは「落ち葉の色などの違いに改めて気づきながら作っていくのが楽しかった」のように実際の落ち葉を絵の素材として見つめることで改めて色の違いに気付きながら制作することの楽しさを述べている。こ

れは環境教育指導資料（1）（2）に該当し、学生ａ、ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ｖ「いろいろな葉の形や色に触れる事ができて良かった」のように実際に自然物に触れていることから環境教育指導資料（1）に該当し、学生aと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生wは「自分でやってみてとても楽しかった」の「やってみて」のように活動すること自体に楽しさがあると述べていることから、環境教育指導資料（2）に該当し、学生bと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ｘ「落ち葉を拾いに行ったときに、葉の色などきれいだと感じました。絵の内容に合わせて葉の色を選んだりするのが楽しかった」の「きれいだ」は環境教育指導資料（1）に、「選んだり」が（2）に該当し、学生ａ及びｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ｙ「どのようにしたら良い絵本にしようか想像して作ることができました。子どもたちに友達と会話を楽しみながら落ち葉絵本を作って欲しい」の「どのように」が環境教育指導資料（2）に「会話を楽しみながら」が（3）に該当し、学生ｂ、ｃと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ｚ「いろいろ作りたい物ができたりするのでとても楽しかった」の「作りたい」は環境教育指導資料（2）に該当し、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生aa「いろいろな物でなにかを作る楽しさを子どもたちに教えたい」の「なにかを作る」は環境教育指導資料（2）に該当し、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ab「製作するのはすべて自分ならではのもので、完成したら達成感が味わえる」の「製作する」は環境教育指導資料（2）に該当し、学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ac「落ち葉を拾いストーリーを考えるのが楽しかった。皆、違った話があり、おもしろかった」の「落ち葉を拾い」は環境教育指導資料（1）に、「考える」は（2）に該当することから、学生ａ、ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ad「外に落ち葉を集めたりすることもとても楽しかった」の「落ち葉集め」は環境教育指導資料（1）に該当し、学生ａと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生ae「集団で外へ出かけ、こっちにはこんなものがあるといったやりとりができ一人で落ち葉を集めるより楽しく効果的に行えると思った。・・・また物語を作ることを念頭において集めると、より落ち葉に興味が持てた」の「外に出かけ」が環境指導資料（1）、「やりとり」が（3）、「物語を作る」が（2）に該当し、学生ａ、ｂ、ｃと同様の見通しをもつことができると考えられる。
学生af「葉っぱはそのままでも使えるし、ちぎって他のものを表現できる。・・・自分で落ち葉を拾うことで自然と関わることができる」の「ちぎって表現」は環境教育指導資料（2）、「自然と関わる」は（1）に該当し、学生ａ及び学生ｂと同様の見通しをもつことができると考えられる。

上記の感想をまとめてみる。「枯れ葉は乾燥して扱いにくい」などの技術的な内容と「表現するのは意外とむずかしい」などのように創作することの難しさがあげられている。しかし、幼稚園で実践されていることから考えれば、回数を重ねることで、難しさは解消されていくのではないかと考えられる。また、一方、ポジティブな内容を集約してみると、「悩んでいくことも大切だ」のように難しさが子どもたちの成長にとって重要であると前向きにとらえている。「表現したいものを作る楽しさ」「ストーリーを考えるのが楽しさ」など「落ち葉絵」づくり、そのものの楽しさをあげている学生もいた。また「外に出かける」「自分の手で落ち葉を集める」「友達と会話を楽しみながら」「発表の時間」のように、今回、計画し実践した「落ち葉絵」制作の全般的な活動を楽しさとしてあげている学生もいた。さらに、学生ｏ「先生の立場になったとき、子どもたちの気持ちが多少理解できると思う」は子どもと関わったとき、この体験が生かせるという趣旨であり、「落ち葉絵」制作は学生にとって幼児が育む能力、態度を理解できる効果があるのではないかと考えられる。

おわりに

落ち葉絵制作を行った学生の感想を分析した結果、ほとんどが環境教育指導要領（1）（2）（3）のいずれかか、すべてに該当した。学生が幼児と一緒にこのような活動をすれば、自分の経験から、幼児の様子を

環境教育の観点から見通し、それを援助しながら子どもを育むことができると考えられ、「落ち葉絵」制作は幼児と関わる学生にとって環境教育の教材として活用できるのではないかと考えられる。

また、学生の感想からは『表現力』『興味関心』『発見』『季節感』『発想』『気付き』『数量』『感じ取れる』『想像力』『見立てる』『考える力』『観察力』などがあった。これらは幼稚園教育要領領域「環境」の内容を中心に他の領域にもあった語であり、幼児が育むべき、大切な力である。このことからも、幼児との関わりをもつ学生にとって「落ち葉絵」制作の意義は大きいと考えられる。

参考文献

国立教育政策研究所：「環境教育指導資料、幼稚園・小学校編」（2014）http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/kankyo_k_n_e.pdf

入江和夫他（2012）：「中・高校生の「環境保全の必要性」を高める要因」山口大学教育学部附属教育実践センター研究紀要第33号，pp.135-141.

入江和夫他（2014）：「教員養成学部生の「環境配慮行動」を高める要因」山口大学教育学部論叢　第64巻，第３部，pp.15-22.

大阪市J幼稚園：http://www.josei.ed.jp/document.php?pid=16&pno=13

千葉市M幼稚園: http://www.masago-shirayuri.ed.jp/index.html

文部科学省（2008）：幼稚園教育要領の解説